



第43回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、山下眞貴子さんにご紹介いただいたこの方は、「さまざまなことに挑戦する、良き相談相手でもあるスゴイ人」とのこと。インタビュアーは栢 志帆でお届けします。



【今回のスゴイ人】

パティスリー クレール
勝原 真由美さん

今回は大隅町にあるパティスリークレールのオーナーで末吉町出身の勝原真由美さんにお話を伺ってきました。

パティシエの道を選んだ理由は？
「自由に仕事をしたいと思って、中学2年生のときに漠然と経営者になろうと思ったんです。それで料理をするのが好きだったのでお菓子をつくらうとパティシエを目指しました（笑）」

高校卒業後、技術を学ぶため東京の学校へ進学。卒業後はいくつかの店を経験し、店を任せられる程に腕を磨きました。

その後2人の娘さんが生まれたこともあり、地元で子育てがしたいと思い帰郷。その頃はパティシエの仕事からは離れ、子育て第一の生活だったそう。

「だけど離婚して、それからお金と子どものために定時であられる仕事をしていました。だけどある日クリスマスケーキを頼まれて作ってたらすぐ没頭できて…」

そこで『やっぱりこの仕事したい』と思った勝原さん。

「ここで諦めたら『あなたたちのために我慢したのに』とか言ってしまうかもしれないと思って。それは嫌だったんです」

その想いを当時まだ6歳と3歳だった娘さんに相談をしたそう。

「ママ、ケーキ屋さんやろうと思うけど、どう思う？ って聞くと『いいんじゃない？』 って。自分の言葉に責任持ちなさいよっつて念をおしました（笑）」

そこから自身で起業、パティスリークレールを開きました。8月で7年目を迎えます。

好きな事をさせてもらっているからその分、仕事以外の時間は子どもたちと接していきたいし、優しくできる、と話す勝原さん。

「ママがケーキ屋さんじゃなきゃ良かったと言われたこともあるんです。いつか、ママの子で、ケーキ屋の子でよかったと思ってもらえるように頑張ってます」と教えてくれました。

実は隣のスゴイ人



パティスリークレール

住所 曾於市大隅町下窪町 97
 ☎ 099-479-3520
 営業時間 10:00 ~ 19:00
 定休日 毎週月曜日
 日曜日不定休 (月二回)

▶インタビューを終えて

甘いケーキの香りの裏には、母親と経営者の間で揺れ動く想い、葛藤、覚悟。包み隠さず話す姿がすごくカッコよかったです。初めてのインタビューでしたが、その芯の強さにしびれました。



協力隊の今日この頃

はじめまして、6月より地域おこし協力隊となりました栞志帆です。都城出身で父母がミニトマトを栽培しています。

小さい頃から身近に農業があったため都城農業高校へ進学し、主に野菜について学びました。一旦は東京に生まれましたが、やはり生まれ育った場所が恋しくなり帰ってきました。

突然ですが、私には夢があります。それは子どもたちの将来なりたい職業ランキングに「農家」を入れることです。私自身小さい頃から農業が好きということではなく、ただ身近にあっただけで、農業って面白い、カッコいいと思うようになったのもここ数年のことです。

農業の魅力は沢山ありますが、中々子どもたちに伝わりづらい所があります。私の活動で農業へのイメージを変えていけたらと思いますし、曾於市の一員として町の活性化に繋がる活動をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

